全国高校サッカー選手権 県大会

尚志、攻守に隙なし

富岡、守備力光る

7日決勝

第94回全国高校サッカー選手権県大会2次大会は31日、郡山市西部サッカー場で準決勝2試合を行い、尚志、学法石川が決勝に進んだ。決勝は7日午後1時10分から同サッカー場で行われる。第1シードの尚志は第4シード富岡と対戦。前半12分に挙げた先制ゴールを守り切り、1―0で勝利した。第2シードの学法石川は第3シード帝京安積を2―1で下した。大会には県サッカー協会、県高体連などの主催。2次大会には28校が出場し、トーナメント戦を繰り広げている。

▽準決勝
尚志1（1―0、0―0）0富岡
▽得点者【尚】高橋（前12分）

【評】尚志が富岡に零封勝ちした。尚志は前半12分、FW小野の右サイドからのセンタリングをMF高橋が頭で押し込み先制。その後も素早いパス回しで終始ボールを支配し、反撃を許さなかった。富岡は尚志の攻撃陣を組織的な守備でかわし、狙い通りロースコアゲームに持ち込んだが、1点が遠かった。

試合後、悔しさをにじませる富岡イレブン

先制点でゆとり　尚志

盤石の試合運び

3年連続の決勝進出

尚志は盤石の試合運びで3年連続の決勝進出を決めた。仲村浩二監督は「序盤で先制し、精神的に楽になった。自分たちのサッカーができた」と冷静に振り返った。

チーム力の高さが勝利の鍵となった。細かくボールをつなぎ、数少ない好機を確実にものにした。守備も手堅く、最後まで隙を見せなかった。9月下旬に週2回のミーティングを取り入れたのが奏功し、選手間の連係が一層強まった。

先制点を挙げたのは今大会初先発の2年生MF高橋大河。右サイドからのセンタリングに50分6秒1の俊足で駆け上がり、豪快に頭で合わせた。「チャンスを絶対に逃したくなかった」と満面の笑み。センタリングを上げたFW小野寛之との連係を何度も練習した成果を出した。

2年連続の全国大会出場を懸けた大舞台に挑む。攻撃の要、小野は「チームはいい状態にある。周囲への感謝の気持ちを胸に最高のプレーを見せたい」と誓う。仲村監督は「決勝は激しい展開になる可能性がある。気持ちを切り替えて臨みたい」と表情を引き締めた。

【尚志―富岡】前半12分、ヘディングシュートを決めるMF高橋㉑

全国の夢 後輩に託す

今年度から募集停止の富岡

2年ぶりの王座奪還を狙った富岡だったが、昨年決勝で敗れた尚志の堅守を崩せなかった。主将のFW渡辺大輝は「我慢すべき前半に失点したのが痛かった」と唇をかんだ。

富岡は守りからリズムをつかみ、カウンターで得点を狙うスタイルを武器に勝ち上がった。尚志の猛攻で守備陣が引き気味になり、先制を許した。FW国分裕史と2年生のMF菊池諒が中心となり反撃の糸口を探したが、相手守備陣を抜けず、シュートにまで持ち込めなかった。

富岡は今年度から新入生の募集を停止した。来年は現2年生だけで戦う。菊池は「人数が少なくなるのはさみしいが、内容の濃い練習ができ、チームの一体感もさらに高まるはず。最後の代として恥じないプレーをする」と誓った。

尚志 1―0 富岡

	尚志		富岡
G	塚出		富岡
K	原		藤本
	盤水		加根川
	藤分		江国
	梨木		国久
	本		高木
	橋		佐田
	本		山口
	野		池田
			菊地
			渡辺
▷交代	小野		
【尚志】			
後9分	池	脇	（高橋）
後19分	茂村	木山	（清水）
後29分			（国本）
【富岡】			
後22分	荒	0	（菊池）
後27分	内	山0	（江川）
後32分	千	葉0	（渡辺）
後38分	安	部0	（国分）

学法石川 2―1 帝京安積

	学法石川		帝京安積
G	古川		遠藤
K	川		岡部
	島		金子
	風		鈴木大
	高		橋裕
	池		佐本聞
	坂		貝久瀬
	田		薄井
	木		志賀
	伸		鈴木郁
	渡辺		岡崎
	猪		
	河		
	大内		
	安秀		
	佐部		
▷交代	代藤		
【学石】			
後1分	酒	井0	（渡辺伸）
後42分	金	沢1	（佐藤）
【帝京】			
後25分	橋本幸	0	（鈴木郁）
後37分	久	保0	（貝瀬）
▷警告			
【帝京】	鈴木郁		